

○令和2年度における御嵩町地球温暖化防止対策実行計画における点検結果について

項目	基準年度（平成28年度）		対象年度（令和2年度）		比較増減	
	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）
公用車（ガソリン）	31,216.87	72,423.14	23,733.77	55,062.35	-7,483.10	-17,360.79
公用車（軽油）	3,555.12	9,172.21	6,423.92	16,573.71	2,868.80	7,401.50
通勤車（ガソリン）	36,300.00	84,215.29	35,276.52	81,841.53	-1,023.48	-2,373.76
通勤車（軽油）	438.00	1,128.75	553.44	1,427.88	115.44	299.13
灯油	9,791.52	24,380.88	4,555.60	11,343.44	-5,235.92	-13,037.44
A重油	39,300.00	106,503.00	32,500.00	88,075.00	-6,800.00	-18,428.00

項目	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）
電気	1,120,127.00	513,316.21	1,027,767.00	406,346.06	-92,360.00	-106,970.15

	基準年度（平成28年度）	対象年度（令和2年度）	増減		
CO2排出量合計	811,139.48	660,669.96	-150,469.52	対基準年削減率	18.55%

【平成30年度におけるCO2の排出状況】

基準年度である平成28年度は、全国的に冬季の気温が低く、気象庁の発表では西日本は32年ぶりの寒い冬であったと発表され、また、対象年度である令和2年度は、気温の高い状態が続き、暖冬となり、年平均気温は全国的に記録的な高温であったと発表されています。そのため、冬季における暖房のための電気、灯油、A重油の使用量の差がCO2の排出量の削減に大きく影響したとみられます。

また、電気使用におけるCO2の排出係数が0.423～0.476から0.391～0.431と改善していることもCO2の削減要因となりました。

一方、公用車の運用においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、出張等の遠出が減少したことで、ガソリンの使用量は減少していますが、軽油については使用料が増加しました。

通勤車両については、職員数の増減はほとんどないことから、採用者と退職者の通勤距離の差、職員の転居による通勤距離の増減が燃料使用量に影響したものと考えられます。